

巻頭言



名寄市立大学図書館
館長 黄京性

皆さんにとって、「本」というものはどのようなものでしょうか。自分ならこう答えるかもしれません。名著といわれる書物が映画や音楽そして絵になったりする理由がその一つの答えであると。加えると、「本」に書かれている内容が様々な人間の営み、時代の社会状況や多くの人々の価値観そして個人や社会が抱えている普遍的な問題・課題を反映したり、時には来るべき未来を表現しているからである。すなわち、本は、過去、現在を学び未来を予測できる身近で手軽な媒体であることではないかと思えます。

本文を書く前に、皆さんと同世代でありながら先輩である令和 5 年度の卒業予定者に下記のような素朴な質問をし、回答してもらった内容を紹介しします。4 年間最も「本」を図書館で借りたことで、ベストリーダー賞に選ばれた主人公です。私より遥かに皆さんに身近で納得しやすいご助言になると思えます。ぜひ、じっくり吟味しながら読んでみてください。

① これだけ多くの「本」(450 冊) を借りるようになったのは。

自分の無知が、将来、利用者を救えない、支えられない理由にしくなかつたことがはじまりです。自分が知らない、わからないだけで、目の前の相手の人生や生活が崩れてしまうかもしれないことに危機感を覚えて、様々な本を読みました。

② どのような「本」を借りてきていたか。(専門書だけではないと思いますが)

専門書、マンガ、小説、絵本、雑誌など様々な分野の本を借りていました。幅広く本を借りることで、改めて学びたいと思った時に振り返ることもできます。

③ 自分にとって本そして読書はどのような意味を持っているか。

「読書」は、自分の考えや感情を知るための方法だと考えています。例えば、専門書を読んだ時、自分が元々持っている思考に気づき、その上で新たな発見や専門書が述べている文を捉えて、落とし込むことができます。また、小説は 1 冊 1 冊が人生であると感じていて、読書をしていると自分の知らない感情に出会うこともあります。その感情に名前がなくとも、同じ気持ちになった時、あの時の感情だと思えば、ひとつの思いもまた昇華して、前に進めたり、少し落ち着いたりするのではないかと考えています。

④ 他に何か本、読書と関連し、後輩に話したいことがあれば。

昔の楽しかった思い出や傷、現状の悩みや充実感、未来の不安やワクワク感、様々な感情が巻き起こる中で、みなさんがいつか、心の支えになる 1 冊やポップ、表紙、帯、一文などに会う瞬間があれば、とても嬉しいです。

実に、素晴らしい内容でした。要するに、「人は本を作り、本は人間を創る」、また「本の中に(人生の)道がある」ということによく気づいていることでしょう。図書館は、そうした「本」がたくさんある宝庫なのです。みなさんも、ぜひ、図書館を存分にご活用ください。

2023 年度 ベストリーダー表彰

名寄市図書納入組合様より、2023 年度も図書カードを当館に寄付いただきました。

いただいた図書カードは、卒業生ベストリーダー(4 年間に最も多くの図書を借りた人) 各学科 1 名、計 4 名に贈呈しましたのでご報告いたします。

名寄市立大学図書館は、在学中は勿論、本学卒業後も資料閲覧・貸出、文献複写依頼、レファレンス等各種図書館サービスのご利用が可能です。

皆様の新たな場所での学びの支えや、知識・教養を深める手助けとなれるようお待ちしておりますので、是非ご活用ください。

ベストリーダー受賞
おめでとうございます

栄養学科

作田 佳穂さん 494 冊

看護学科

熊谷 愛夢さん 256 冊

社会福祉学科

櫻庭 優月さん 450 冊

社会保育学科

大西千愛美さん 827 冊



活用しよう! 図書館 WebOPAC



図書館 HP には、ログインすると自分の利用状況がわかる機能があります。

右上の「ログイン」をクリックすると、利用者認証画面になります。ID・パスワードに学籍番号(数字のみ)を入れてログインします。右上に自分の名前が表示されたことを確認しましょう。

HP の画面左側(スマートフォン等画面が小さい場合は画面下部)、「利用者サービス」の「利用状況の確認」を押すと、現在借りている本・今までに借りた本の履歴の一覧を見ることができます。

入学時から卒業時まで借りた図書・雑誌が全て記録されています。また、貸出期限の延長(更新)を 1 度のみですが、行うこともできます。ただし、返却期限が過ぎている資料は貸出延長できません。延滞している資料を引続き利用したい場合は、一度図書館カウンターにて返却した後、貸出処理を行ってください。



推薦図書コーナー ～新たな世界に出会う1冊～

新入生の皆さん、名寄市立大学へようこそいらっしゃいました！地方大学ではありますが、『街全体がキャンパス』と言える、「地域とともにある大学」として、名寄の地で4年間を過ごされる皆さんの学びが豊かなものになりますよう、図書館職員一同もサポートして参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

進級生の皆さんも、図書館の資料や職員を上手く活用し、レポート作成・卒業論文執筆等、学修を更に深めていただければと思います。

今回は、新入生の皆さんに向けて、本学教員よりお薦めしたい本をご紹介します。いずれも自身の視野を広げ、新たな世界に触れることのできる一冊です。新入生は勿論、進級生の皆さんにもお薦めですので、この機会に是非ご一読ください。

あなたの世界を広げてくれる本を、図書館に見つけにきてくださいね。

1. 栄養学科 助教 泉 史郎 先生より

『ポケットに名言を』 寺山修司著、大和書房【今後当館に所蔵予定です】

劇作家として強烈な個性を放った寺山修司氏がまとめたこの本は、偉人の残した名言に限らず、映画のセリフや歌謡曲の歌詞、小説の一説など、ジャンルの垣根を越えて「言葉」を集めた作品です。

ヒマな時に開いて眺めるだけで語彙の引き出しが広がります。
気軽に手に取って読んでほしい一冊です。



2. 看護学科 教授 加藤 千恵子 先生より

『なんのために学ぶのか』 池上彰著、SBクリエイティブ【今後当館に所蔵予定です】

新入生の皆様、池上彰「なんのために学ぶのか」を紹介します。

池上彰さんは、記者時代の失敗や、自分の思いと違う部署での採用などを振り返り、自分のこだわりであった「わかりやすく伝える」ことが次のステップに繋がったと述べています。

この本は教養の大切さを教えてくれます。また、ものの見方を深化させてくれます。さらに、生き方を考えるきっかけになります。言葉を意識して吟味して使うことで言霊と言われるように、思いが伝わり、共感力もコミュニケーション能力も学び方も変化してきます。まず、読んで、そして、学び続けてください。

皆さんは「その道のプロ」になるためにこの大学を選択し学生になりました。受け身の学習にサヨナラして、興味・関心を抱いたところから深めてください。

4年間は短く、何に時間を優先させるのか、無知の知を意識して貪欲に学んでいこう！



3. 社会福祉学科 准教授 中澤 幸子 先生より

『自閉症の僕が跳びはねる理由 会話のできない中学生がつづる内なる心』

東田直樹著、エスコアール出版部【当館所蔵有：378.8/H】

本書は、人との会話が難しい自閉症を抱えた作家である東田直樹氏が、13歳の時に執筆しました。

「僕が、ピョンピョン手を叩きながら跳びはねる時、一体どんな気持ちだと思いますか？……僕は跳びはねている時、気持ちは空に向かっていきます。空に吸い込まれてしまいたい思いが、僕の心を揺さぶるのです。」(本文「飛び跳ねるのはなぜですか？」より)

このように自閉症当事者としての思いや考えを表現し、説明しています。世界30か国以上で出版、イギリスで映画化もされています。自閉症の子どもの心の一端を知る手掛かりとして、ぜひ読んでいただきたい一冊です。自閉症の世界をもっと知りたくなるかも……。



4. 社会保育学科 教授 堀川 真 先生より

『わたしとあそんで』 マリー・ホール・エッツ ぶん/え、よだじゅんいちやく、福音館書店

【当館所蔵有：JE/E】

絵本とはおもしろいもので、子どもの頃の受けとめと大人になってからのそれでは深さの違うことがよくあります。本書は、森の生きものたちと友達になりたい女の子が、追いかけて回して相手にされず、池のほとりてじっとしているとみんなが集まってきたというお話です。子どもの頃なら「よかったね」で終わりそうですが、大人になって読むと適切なコミュニケーションというものがあるのだなということに気づかされます。みなさんは大人になり、自分が興味を持ったもの、おもしろいと思ったもののなぜを確かめるところにきました。そんな気づきをたくさん見つけられますように。



5. 教養教育部 教授 小古間 甚一 先生*より

『知的複眼思考法 誰でも持っている想像力のスイッチ』

荻谷剛彦著、講談社【当館所蔵有：B141.5/K】

本書のキーワード「複眼的思考法」について、「ステレオタイプから抜け出して、それを相対化する視点をもつことが重要です。複眼的思考とは、複数の視点を自由に行き来することで、一つの視点にとらわれない相対的思考法」と説明されています。

さらに本書には「創造的読書」「考えるための作文技法」「問いの立て方と展開の仕方」など学習するうえで必要なノウハウが詰まっています。

これからの学びに役立つ1冊です。ぜひ一読を。

*小古間先生は2024年3月末にご退職されています。当記事は2024年3月にご寄稿いただきました。

